

これまでの支援に
「ありがとう」の
気持ちを込め
コミュニケーション
マークを作りました



加速する復旧・復興と 新たなにぎわいづくり

～町長マニフェスト進展状況～

熊本地震から4年半、町は町民の皆さまと共に、全力で
復旧・復興に取り組んできました。

令和2年4月には、総合体育館の建て替え完了を皮切
りに全ての災害公営住宅が完成し、益城中央被災市街地
復興土地区画整理事業、県道熊本高森線4車線化事業も、
確実に進んでいます。（円グラフを参照）

また、「横町線まちなみ Book」の作成など、地元の誇
りを大切に住民主体のまちづくりも進めています。

今後も、復旧・復興をさらに加速させ、新
たなにぎわいづくりを通じた“創造的復興”
を達成するため、一層力を入れていきます。



馬水団地の完成で全19団地の整備
が完了

魅力が詰まった
「まちなみ Book」



待ち望んだ総合体育館も完成

益城中央被災市街地復興土地区画整理事業

50.9%



区画整理による宅地造成工
事が進み、一部では引き渡しも
実施

正式な換地の前に
行う仮換地指定の
割合（7月末時点）

県道熊本高森線4車線化事業

78.1%



着々と進む4車線化事業
（写真はモデル区間）

用地買収の契約率

防災



さまざまな防災用品が入った防災倉庫

3月までに町内の各所に災害時の避難
路を6カ所、避難地16カ所を整備し、
防災倉庫を35カ所に設置しました。地
域防災計画についても見直したほか、町
で初となる防災士養成講座 in ましきを
開催し、57人の防災士が誕生しました。

熊本地震発生当時のようすや記録などを実践に役立つようあ
りのままとめた震災記録誌を発刊。支援してくださってい
る全国の団体などに送られ、7月豪雨の際も、町の
経験を少しでも伝えるべく、町長が直接被災地に出
向き、お渡ししました。また同被災地の支援のため、
延べ280人の町職員を派遣しました。



ありのま
まが記され
た震災記
録誌

感染症対策を講じた避難所運営のた
めにパーティションや段ボールベッド
の購入など避難所環境を整備し、5月
24日にこれらを講じた避難所運営訓
練を全国に先駆けて行いました。その
結果、梅雨時の大雨や台風10号の際
の対応に役立てることができました。



感染防護策を取り入れた避難所運営訓練